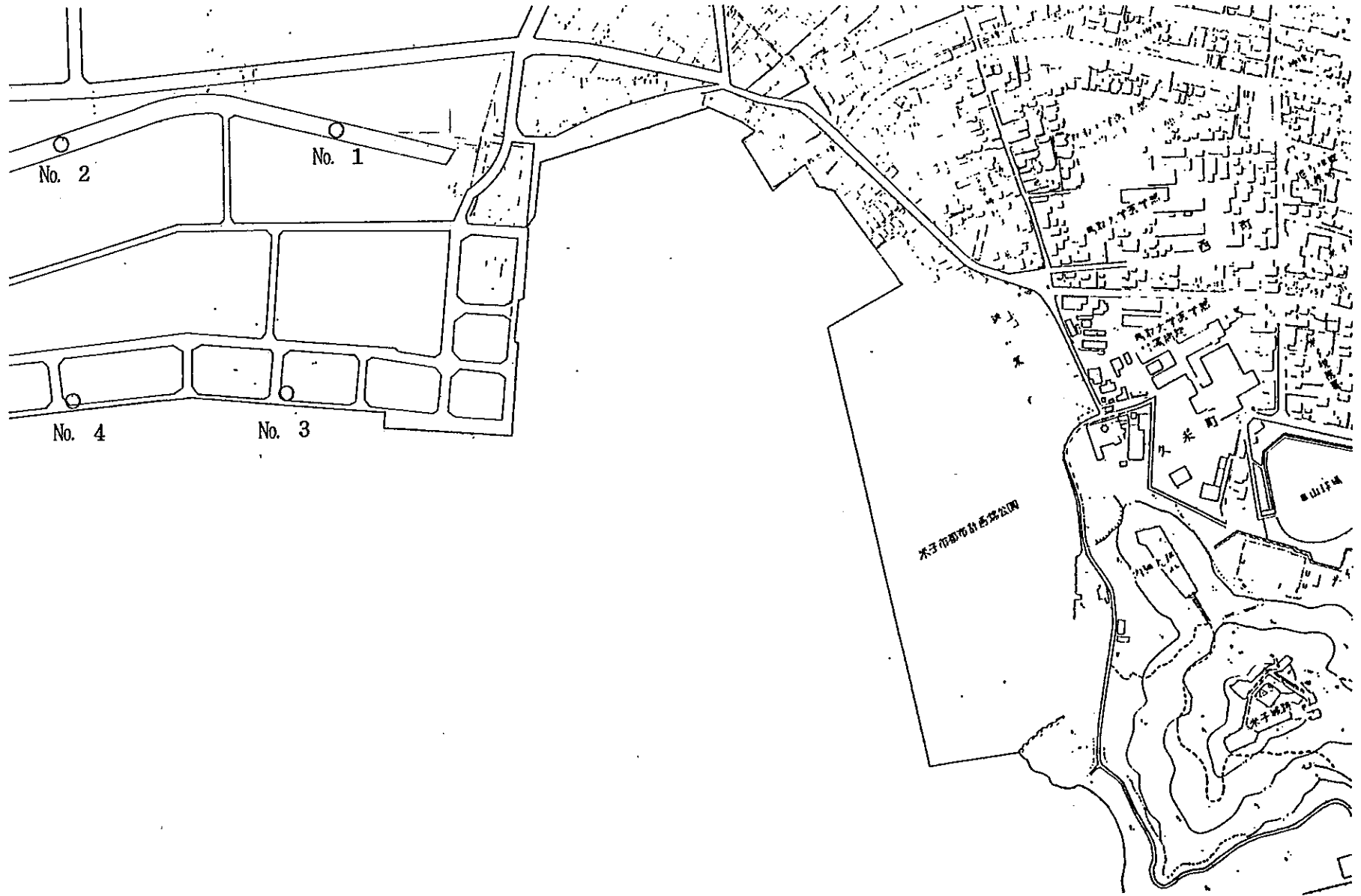
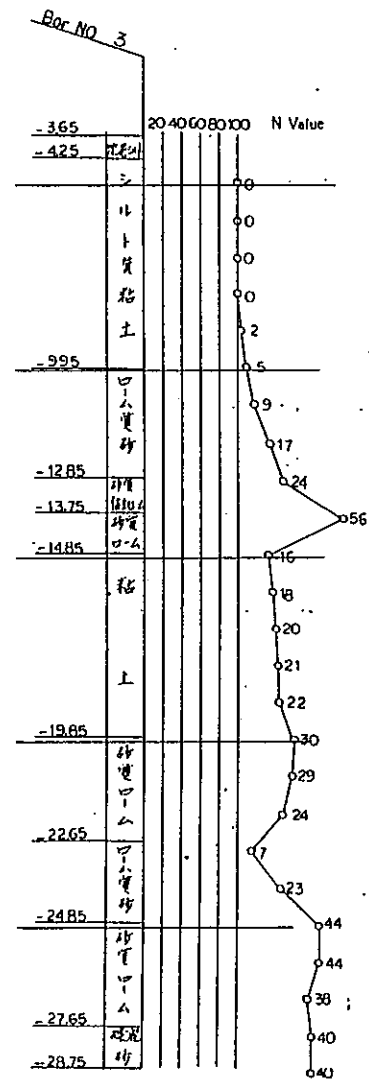


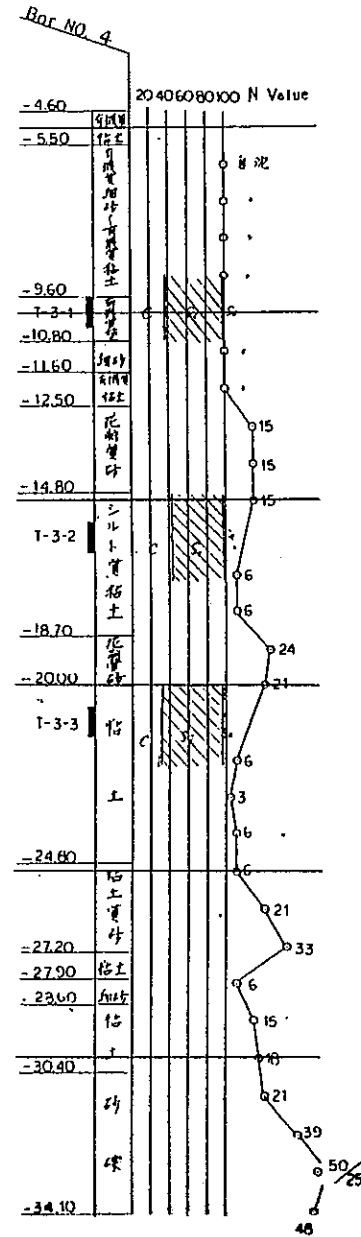
米子港地質調査位置図



No. 3



No. 4



別添2



→縮小← 100% ←拡大→

柱状図印刷

ボーリング柱状図

調査名 中海湖岸堤等予備設計業務

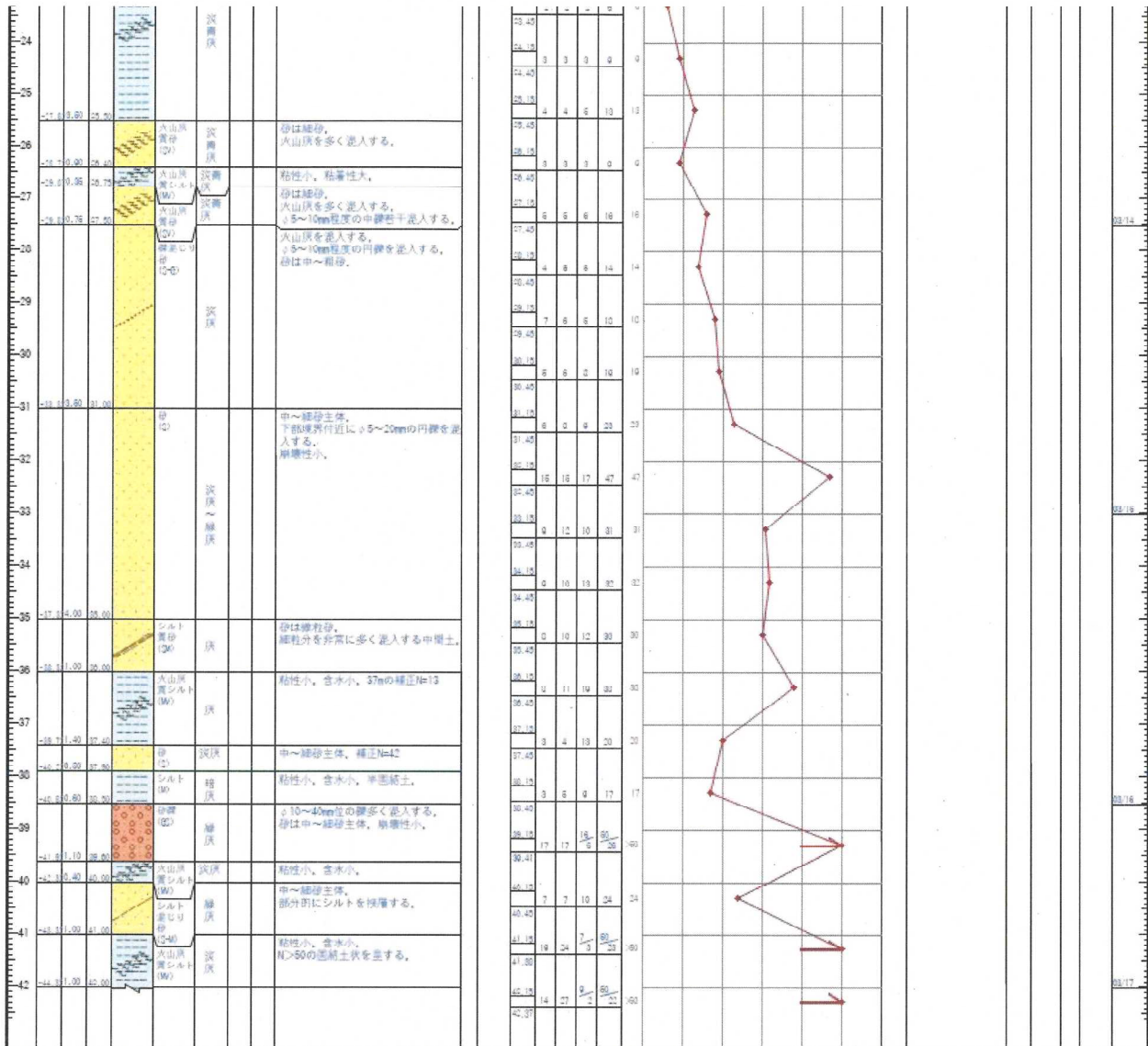
ボーリングNO.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNO.

ボーリング名	BP-1 (37ヶ崎)		調査位置				北緯	35° 26' 05.7061"		
発注機関	国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所			調査期間	平成19年02月26日 ~ 平成19年03月26日		東経	133° 18' 26.5817"		
調査業者名	いであ株式会社 東京支社		主任技師	牛浜 幹夫	調査代理人	菊池 学	コア鑑定者	與良 博雄	ボーリング責任者	上山根 攻
孔口標高	-2.32 m	角			試験機	東邦製01-B48型		ハンマー	落下用具	
総掘進長	42.00 m	度			エンジン	ヤンマー-HF012		ポンプ	東邦製 BG-3B	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色相対調度	相対稠度	記事	孔内水位 (m) / 測定日	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日
										深度 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数 / 貫入量 (cm)	N 値				
	-2.32	0.35	0.35		主粒 (B)			コア長10cm位になる地層層。 1.10~2.00m位までの角礫不均一に多く混入する。 マトリックスは機層へドロ状でコアになりにくい。 含水大。 2.55~3.00m間のマトリックスは、火山灰質土の二次堆積土。									
	-4.42	2.76	3.18		中~粗砂主体			中~粗砂主体。 全体に、小貝片を混入する。 1.2~5mm程度の小礫を若干混入する。 含水大、層水大。 6.5~6.7m、7.5~7.7m間は粗砂主体で細砂及び小貝片を非常に多く混入する。 9.75m付近にシーム状でシルトを挟む。 12m以下、シルトを若干混入する。									
	-11.7	9.30	12.40		粘性中位			粘性中位。 1.2~5mm程度の小礫を若干混入する。 砂は粗砂主体に多く混入する。 小貝片を多く混入する。 15.55~16.65m間に砂質土を挟む。									
	-17.3	5.60	18.00		土質中位			土質中位。 上部10mまでは中~粗砂主体で、下部に砂質粗砂主体となる。 以深は、均一な細砂。 含水中位。 小貝片の混入はなし。									
	-21.3	4.00	22.00		粘性中位			粘性中位。 小貝片を若干混入する。 角でこねても、ひら状になり難い。									
	-24.3	3.00	25.00		粘性小			粘性小、粘着性大。 下部は砂分を若干混入する。									



ボーリング柱状図

調査名 中海葭津外護岸詳細設計業務

事業・工事名 中海葭津外護岸詳細設計業務

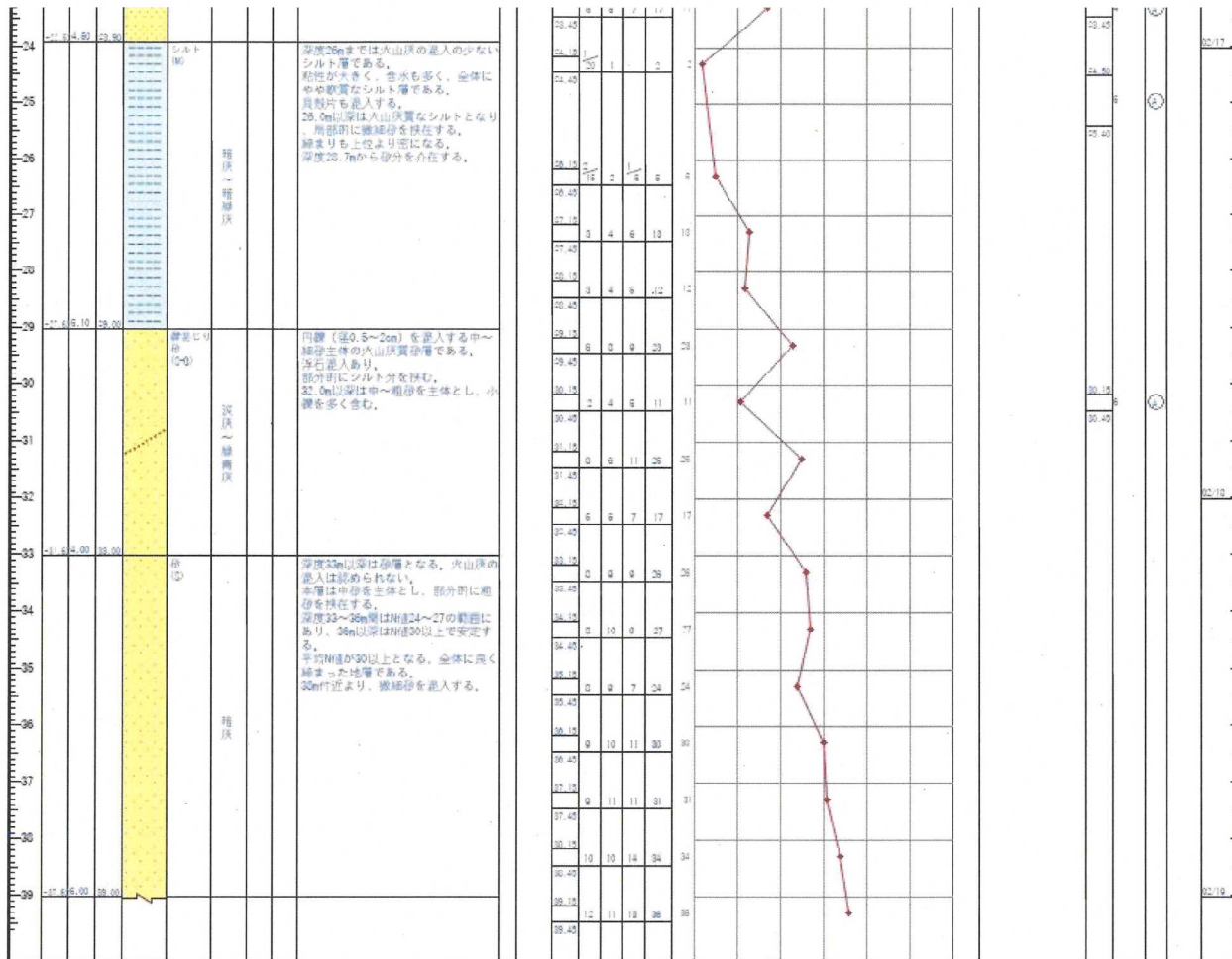
ボーリングNO.																			
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

シートNO.

ボーリング名	DP.No1	調査位置		北緯		35° 28' 06.0000"			
発注機関	国土交通省 中国地方整備局 出雲河川事務所	調査期間		平成21年10月28日 ~ 平成22年03月26日		東経		133° 18' 26.0000"	
調査業者名	株式会社 エイテック 中国支社	主任技師	大島祐二	現場代理人	中谷知秀	コア鑑定者	中谷知秀	ボーリング責任者	山本崇品
孔口標高	1.38 m	角	100° 上	方	270° 西	地盤	水平	試験機	東邦D-1
総掘進長	39.00 m	度	0° 下	向	120° 南	傾斜	0°	ハンマー	落し用具
								エンジン	ヤンマーNF120
								ポンプ	BJ-3C

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状区分	土質	色	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進月日	
										深度 (m)	10cmごとの打撃回数	打撃回数	貫入量 (cm)					
0	0.35	0.35	砂土 (R)	砂	黄褐色			層間の砂土であり、主石並りの砂礫が主体となる。コンクリート、碎石、礫、砂が混在する。深度0.35~2mは灰色砂質土に礫径3~5cmの砂質土片を混入し、深度2.0~2.3mは礫径5cmの歪角礫が混入する。深度2.3~3.7mは粗砂が主体で礫は少ない。3.5~3.7m間に径10cmの礫あり。深度3.7~4.0mは細砂であり、深度4.0m以降はヘッドコア（地中の埋戻し物）のコアと持石礫（最大径約10cm）が混入する。	0.35	1.00	50	3						
0.35	2.65	3.00	砂土 (R)	砂	黄褐色			7m付近まで礫径3~7cmの角礫を多く混入する。特に4.5~5.0mの区間は玉石状に連続する。深度5m以降は砂分を混入し、深度6.0~7.0m間は小礫並り砂状となる。	3.00	1.00	10	11						
3.00	4.00	7.00	砂土 (R)	砂	黄褐色			深度7m以降は埋戻し砂に相当する部分である。中〜細砂主体となり、貝殻片を多く混入する。特に以下の深度で貝殻片の混入が多い。深度7.8~8.0m 深度8.9~9.5m コアを見る限り、下位の砂層との土質的な境界は識別困難である。ただし、以下の傾向が認められる。粒度試験の結果、13.5m以降は分類された砂である（二次的な可塑性あり）、N値が12.5mを境に上位でN=4以上、下位でN=1となる。	7.00	1.00	10	11						
7.00	1.00	8.00	砂土 (R)	砂	黄褐色			均質な細粒砂が主体となる。全体に細く、均等に礫を混入する（礫径0.5~1cm主体）。本区間には貝殻片はほとんど混入して見えない。N値も1~2の範囲にあり、非常に細かい性質である。	8.00	1.00	10	11						
8.00	1.00	9.00	砂土 (R)	砂	黄褐色			粘性が大きく、軟質な砂質シルト層である。砂分も多量に混入している。貝殻片も混入する。10m~10m間で不良引込試験採取。	9.00	1.00	10	11						
9.00	1.00	10.00	砂土 (R)	砂	黄褐色			均質な細粒〜中粒の砂からなる。層間に硬質土を混入。層厚17~22の範囲にあり、締まっている。深度2m以降は細砂主体となり、下位へ向かいシルトへ移行する。	10.00	1.00	10	11						

別添 2



別添 2

